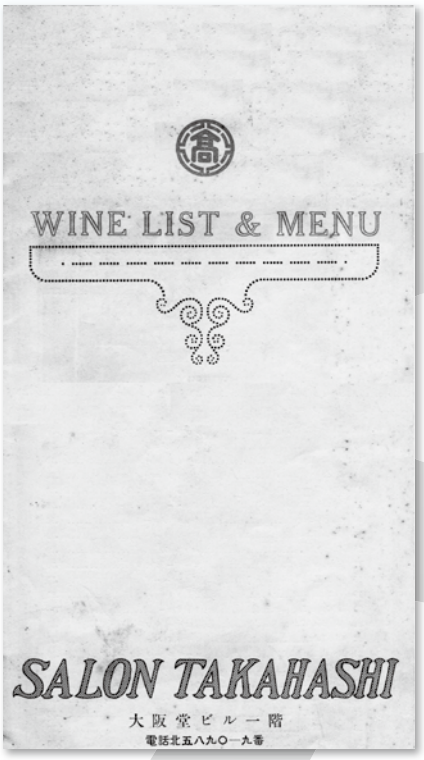
さくら さくら さくら

―ワインリストにも大阪の春

COCKTAIL（カクテール）

80	Salon	サロン高橋カクテール	￥1.20
81	Cherry-land	櫻咲く國のカクテール	1.00
82	Maple-land	紅葉する國のカクテール	1.00

写真：「サロン・タカハシ」のカクテルメニュー（￥1.20は1円20銭の意味）



写真：「サロン・タカハシ」のWINE LIST & MENU（ワインリスト&メニュー）

春爛漫の花見の宵の酔い心地、桜にちなんだ話である。

戦前の大阪のモダニズムを伝える広告やパンフレットを調べていて、中之島に架かる大江橋の北側に建つ堂島ビルディング（略して堂ビル）にあったレストラン「サロン・タカハシ」のワインリスト・メニューが目についた。堂ビルは、大正12（1923）年に市庁舎の対岸に竣工し、最上階に屋上庭園を自慢するホテルがあった。「サロン・タカハシ」の本店は心斎橋だが、海外からの来客も意識してか、メニューを見るとシャンパンやウィスキー、ブランデー、ワイン、ジンなど充実し、カクテルだけで20数種がリストアップされている。

驚いたのが、リストにある“桜咲く国のカクテール”である。大阪のモダニズムを象徴するカクテルには、大正中期に道頓堀に開店し、画家や音楽家、役者など、芸術家の拠点となったカフェー「キャバレー・ヅ・パノン」に名物「五色の酒」があり、赤（ストロベリー・リキュール）、緑（ペパーミント）、白（マラスキノ）、黄（キュラソー）、茶（ブランデー）など、五種類の比重の異なるリキュールが五層になった美しいカクテルだった。

“桜咲く国のカクテール”の何に驚いたのか？　ご存じの方にはいまさらだが、この名前は、現在のOSK日本歌劇団の源流であり、大正11（1922）年に大阪で創設され、宝塚歌劇団、松竹歌劇団（SKD）と並ぶ三大少女歌劇のひとつである松竹楽劇部が、昭和5（1930）年道頓堀の松竹座公演「春のおどり　さくら」で発表して以来、テーマソングとしてきた「桜咲く国」と同じだからである。

“桜咲く国、桜、桜、花は西から東から…”と歌われる「桜咲く国」の作詞は大阪を代表する川柳作家の岸本水府、作曲は松本四良である。水府（1892―1965）は川柳雑誌「番傘」を創刊して文芸の世界で活躍するとともに、コピーライターとして活躍し、「福助足袋」「壽屋（現サントリー）」「桃谷順天館」などの広告や、「グリコ」では広告部長を務めて「一粒300メートル」のアイディアにも関わったともいう。本欄でも以前、道頓堀にある水府の句碑を紹介した。田辺聖子さんに評伝『道頓堀の雨に別れて以来なり―川柳作家・岸本水府とその時代』があって有名である。

「サロン・タカハシ」のリストには、“桜咲く国のカクテール”の次に“紅葉する国のカクテール”がある。これにも水府が関係したかは不明だが、値段はコーヒーが50銭、国産ビールが70銭に対してどちらも1円であり、カクテルの英語名はそれぞれ“Cherry-land”“Maple-land”であるのが可愛らしい。ご興味のある方は、メニューにある堂ビル1階の高橋食堂「電話北5890」へお問い合わせを…と言いたいが、むろん電話は通じない。春の夜のむかし話である。

しかし、「桜咲く国」はいまもOSK日本歌劇団の象徴であり、今年はOSK日本歌劇団創立90周年記念「レビュー春のおどり～桜咲く国」が東京日生劇場（4月5日～8日）で、つづけて道頓堀の松竹座（4月19日～29日）で、恒例の絢爛たる舞台がくりひろげられる。これについてのお問い合わせは劇団にどうぞ。

筆者プロフィール
橋爪 節也 はしづめ せつや
大阪大学総合学術博物館館長／大学院文学研究科教授。1958年、大阪市生まれ。東京芸術大学大学院修了。大阪市立近代美術館建設準備室主任学芸員を18年間つとめ現職。専門は日本美術史。展覧会では「没後200年記念　木村蒹葭堂―なにわ　知の巨人―」「北野恒富展」「没後80年記念　佐伯祐三展」などに携わる。編著に『大大阪イメージ―増殖するマンモス／モダン都市の幻像―』（創元社）など。